

11月月例労働経済報告のポイント

一般経済

- 景気は、弱まっている。さらに、世界経済が一段と減速するなかで、下押し圧力が急速に高まっている。
 - ・ 輸出は、減少している。生産は、減少している。
 - ・ 企業収益は、減少している。設備投資は、弱含んでいる。
 - ・ 雇用情勢は、悪化しつつある。
 - ・ 個人消費は、おおむね横ばいとなっているが、足下で弱い動きもみられる。

- 先行きについては、原油価格等の下落による一定の効果が期待されるものの、世界的な金融危機の深刻化や世界景気の一層の下振れ懸念、株式・為替市場の大幅な変動などから、雇用情勢などを含め、景気の状態がさらに厳しいものとなるリスクが存在することに留意する必要がある。

労働経済

- 労働経済面をみると、雇用情勢は、悪化しつつある。
 - ・ 9月の完全失業率（季節調整値）は4.0%で、2ヶ月ぶりに前月差で低下（0.2ポイント低下）。
 - ・ 労働力人口（原数値）は6,663万人で、8ヶ月連続で前年同月差で減少（28万人減）。
 - ・ 就業者数（原数値）は6,393万人で、8ヶ月連続で前年同月差で減少（29万人減）。
 - ・ 雇用者数（原数値）は5,529万人で、2ヶ月連続で前年同月差で増加（22万人増）。
 - ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.84倍（前月差0.02ポイント低下）。
 - ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、1.21倍（前月差0.03ポイント低下）。
 - ・ 現金給与総額（原数値・確報）は273,605円で、前年同月比0.2%増。